

メルヘンワールド入間店 (埼玉県入間市)

震災を機に県外へ出店 商圈最大の低貸台数で集客

宮城県内でホールを展開するカツヨシ商事(本社/宮城県仙台市)は、今年5月12日に『メルヘンワールド入間店』をグランドオープンした。同社にとって埼玉県での出店は2店舗目。震災を経験した同社にとって、東北以外に店舗を運営することで事業継続を図るとともに、社員のモチベーションアップを期待してのことだ。



大型LEDビジョンで店舗をアピールする『メルヘンワールド入間店』

『メルヘンワールド入間店』は1円パチンコ432台、5円パチスロ190台の居抜き店舗。近隣には大手企業2社の大型店のほか、500台クラスの低玉貸し専門店が営業していたため、エリア最大級の低貸し専門店にするこゝとで、低貸しファンの集客を図ろうと考えた。

経営するカツヨシ商事の関東エリアマネージャー・森氏は、「本社のある宮城県での知名度は高いが、埼玉県ではまだまだなので『メルヘンワールド』の知名度を上げることが最優先。多くのお客様に来店していただけるよう、パチンコは1円貸し、パチスロは5円貸しに絞った」

集客力を高めるため、4円パチンコ、20円パチスロと遜色のない機種構成にし、オープン後も新台を積極的に導入。出店前の予想を上回る会員数を獲得できたこともあり、好調なスタートを切った。

宮城県で7店舗を運営する同社は2011年12月、埼玉県久喜市に総台数743台の低玉・メダル貸し専門店『メルヘンワールド鷲宮店』を出店。翌



1円パチンココーナーの『海』シリーズはエリア最大台数で、ファンの支持を集めている



店内でもエリア最大の低貸し専門店であることをアピール



パチスロでも新台を積極的に導入

12年5月に『メルヘンワールド入間店』をオープンした。同社が宮城県外に出店した理由のひとつは、東日本大震災にある。地震発生後、被災地の多くの店舗が営業再開まで時間がかかったが、同社も例外ではない。琴亮吉社長は「社員のためにも、会社を存続させていくためには、東北以外の場所にもホールを出店しなければならぬ」と考えてのことだ。県外に出店することで、震災後に沈みがちだった社員のモチベーションアップにもつながるという考えもあった。

13年度中には埼玉県内にさらに1〜2店舗の出店を計画。15年度までには関東圏内で既存店と合わせ6店舗にまで増やす予定だという。

オープンから4カ月が経過した『メルヘンワールド入間店』は、大手競合店が低玉・メダル貸し部門を強化する中、「新台で遊べる低貸し専門店」という認識も高まり、収益を下支えするだけの固定客を獲得しつつある。

商圈内でのブランドが浸透したと判断した森マネージャーは、「新台入替を積極的に行う現在の営業スタイルを貫きつつ、貸し玉料金の変更も行い、収益アップと客数アップを両立させる」と意気込む。